

2 主な質疑応答

問 市民が気軽に有効に使えるスペースをどのように確保したのか。また市民との相談などオンラインでの進捗は。

答 計画段階から市民が集い、憩える場所を作ろうという思いがあり、計画を進めてきた。市の業務以外に夜景を見に來たり散歩したりと人が気軽に立ち寄れる場所を考えてきた。コロナにより、リモート会議等で職員とのオンラインは進んだが、市民とのオンラインは進んでいない。

問 議場の市民開放についての議論はあったのか。

答 場所の有効利用で市民への貸し出しの意見や逆の意見もあった。現時点で一般貸出しはなく、議会が関わっていることも議会での利用はある。

問 議場も含めた庁舎の災害時の使い方は

答 災害時の利用は本庁も避難所利用。議場は段差もないが車いすの議員や理事者を想定しての設計。災害時に避難スペースとしては難しいのでは。資材置きとして利用可能。

問 専任が1人で進めてきたと聞いたが。

答 基本設計の時点で担当となったが途中から専任は一人だった。建築段階では大変さが人事に伝わらず、引っ越しの段取りなど非常に大変だった。ポイントはどれだけ周りの人を巻き込めるか。複数名の職員で進めていくべき。

問 市長と議長が別のフロアだが同じフロアにする意見はあったのか。

答 同じ階にする意見はもともとなかった。同じ縦のライン（上下階）にしないようにという意見はあった。

問 特別委員会について

答 庁舎特別委員会を設置。支所の建て替えもあり、3つの建物を特別委員会で進め、建設完了まで設置していた。

問 海岸に近い場所での建設に対して意見はなかったのか

答 南海トラフが来たらどうするのかという意見はあり、高潮想定よりもかさ上げし、庁舎を高くしたがそれでも色々な意見はあった。他の候補地に関しても埋め立て地と山しかなく、特に山は道路の寸断、がけ崩れが想定され安全な場所がないため、歴史的に中心としてやってきたこの場所で建て替えを行った。

問 検討委員会で障害者や高齢者の懇談会はあったのか。また、それは市内の方を選定したのか。

答 検討委員会の中にはいない。障害者団体、高齢者からの意見は福祉の会議で意見を吸い上げていた。

問 市民に開放している交流スペースはもとの庁舎でもあったのか

答 旧庁舎は屋上も含めて、市民開放を想定していなかった。土日も完全封鎖のため、市民が集える場ではなかった。

問 会議室について

答 貸出し施設はあまりない。旧庁舎は使い勝手が悪く2人の会議でも大きな会議室になっていた。新庁舎はどれだけ必要かしっかりと計算しなおし、相談室を多く設けるなど工夫した。限られた面積の中でこれがベスト。もうワンフロアあったなら更なる工夫ができたと思っている。

問 観光客、市民が立ち寄るのが増えたことによるメリット、デメリットは。

答 メリットはSNSで発信し、それを見た人が訪れることにつながっている。デメリットは夜間休日も開放のため、イタズラがある。ただし、これは以前もあり、デメリットまでにはならない。

問 DX対応でさらにできたことは。

答 コンセント、LAN配線がしやすい建物にはなっている。書かない窓口づくりについてもタブレットを使った無線LANで今の庁舎で対応できる。いろんな工夫が取り入れやすい建物にしている。

以 上